

液細胞診で class V 腺癌を得たことから、粘液産生膵癌と診断し、膵全摘術施行。病理組織学的には、膵体部に 40×22mm の石灰化を伴う粘液癌を認めた。術後 2 ヶ月の現在生存中。特徴的な乳頭所見を呈するこの型の膵癌の早期発見のため、通常の上部消化管内視鏡検査でも、主乳頭の観察が重要と考えられる。

9. 膵頭十二指腸切除が有効であった慢性膵炎で早期胃癌を併発していた 1 例

興梠 建郎・小林 貞雄 (水原郷病院外科)
 小黒 仁・斉藤 徹
 関根 正俊・鈴木 康稔 (同 内科)
 寺田 一郎
 高木健太郎 (新潟大学第一外科)

約 40 年間、1 日に 2 合 (180ml) 位から最近の 5 年間では、900ml~1800ml の清酒を常飲していた男性で、慢性アルコール性膵炎と 5 年前に診断され、治療開始したが断酒できず、急性増悪を繰り返し、最近では上腹部激痛発作、体重減少、急性アルコール中毒、肝障害を呈すようになり、糖尿病、高血圧症を併発し入退院を繰り返していた患者に、膵頭十二指腸切除術を施行し、愁訴の消失と糖尿病の好転をみた 1 例を報告する。

術前検査で胃体部に IIc 早期癌を発見、又 CT、腹部超音波検査、ERCP 等で膵頭部石灰沈着、膵嚢胞形成、拡張した膵管内の結石、下部総胆管狭窄、多発性二次膵管嚢状拡張等が確認された。術前検査では、CEA, CA-19-9, 尿中アミラーゼ、血清アミラーゼ、ACCR, トリプシン、エラスターゼ 1, γ -GTP Al-P, 等の上昇と PFD テストの低下がみられた。

膵頭十二指腸切除時に胃リンパ節郭清と、膵管内結石の胆道内視鏡を用いた除去が行なわれた。術後の検査では上記検査の正常化と 75gr 糖負荷試験、1 日血糖曲線 PFD テスト、ACCR 等で膵内分泌機能、及び膵内分泌機能の両者の好転がみられた。術後 1 年の現在症状全く消失、体重増加がみられ、断酒にも成行、快適な日常生活を送っている。

10. アルコール性膵炎 32 例の検討

羽賀 正人・安達 哲夫 (下越病院 内科)
 山川 良一
 清水マチ子 (舟江病院 内科)

近年アルコール消費量の増加に伴い、アルコールに起因する臓器障害、代謝異常は日常臨床上市しばしば遭遇する病態となってきた。我々は過去 5 年間にアルコール依存症 120 例を経験し、そのうち膵炎と診断された 32 例について臨床像を中心に検討した。症例は男性 29 例、

女性 3 例で 50 歳代の男性が 9 例と最も多かった。問題飲酒開始から症状発現までは 7 年から 20 年まで平均 11.8 年で平均発症年齢は 38.5 歳であった。画像診断では ERCP を 18 例に施行し、石灰化例 8 例、主膵管閉塞 3 例、偽嚢胞 3 例が認められた。また石灰化群に体重減少傾向が認められた。糖尿病は膵炎と密接な関係にあり、11 例 (34.3%) が薬物療法を要した。そしてアルコール依存症 120 例中、膵炎群は非膵炎群に比して肝機能障害 (肝胆道系酵素、ICG) が軽度であった。(p < 0.05) 臓器のアルコール感受性についてさらなる検討が必要と思われた。

11. 胃体部接吻潰瘍の一方が早期癌であった 2 例

浦田 昇・佐々木良文
 山田 八郎・岩田 文英 (佐渡総合病院)
 田尻 正記・本田 康征
 瀬川 宗助・藤野 正義

胃癌と胃潰瘍が同一胃内に独立して存在することは比較的まれとされているが、その中でも接吻潰瘍の一方が癌である例はきわめてまれなものとしてされている。今回我々は胃体部接吻潰瘍の一方が早期癌であった例を 2 例経験した。第 1 例は内視鏡的に一方が悪性であることを疑われ、生検により癌が発見された。第 2 例は当初接吻潰瘍のいずれもが形態的に良性と診断され、治療をうけていたが、潰瘍の経過観察の過程で一方が悪性を疑われ、生検により癌が発見された。

接吻潰瘍の一方が早期癌であった従来の報告例によると、癌の組織型は低分化型腺癌で IIc + III 型をとるものが多いとされているが、本症例はこれとよく一致していた。

接吻潰瘍においてもきわめてまれではあるが、一方が早期癌の例があり、注意深い検索が必要であることを示した。

12. 胃の hyperplastic polyp の一部に癌を認めた 2 例

七條 公利・有田 徹
 柳沢 善計・角谷 宏 (立川総合病院 内科)
 月城 孝志・味方 正俊
 渡辺 裕・村山 久夫

症例 1 は 58 才男性。20×18mm の亜有茎性ポリープで表面はやや分葉状を呈し、発赤調であった。症例 2 は 73 才女性。13×10mm の有茎性ポリープで、表面は比較的平滑で発赤調であった。いずれも内視鏡的には、明らかな悪性所見を認めなかったが、組織診にて、頭部表層の一部に高分化型腺癌が証明された。